

自慢の一枚、ご紹介します

報
「おおだて」

新コーナーを設置

4月16日号から裏表紙に

広報「おおだて」では、毎月十六日号の裏表紙で好評をいただいていた「芝谷地湿原の植物」シリーズが今回で終了しました。これに伴い、四月十六日号からは新コーナーをスタートさせることとなります。

この新コーナーは、市民の皆さんからスナップ写真を募集してご紹介しようというものです。裏表紙はカラー印刷のページですから、お寄せいただいた作品はそのままの姿でご紹介できます。皆さんの参加で、より親しみ易い広報紙を作り上げてください。

市内のお気に入りの風景や表情豊かなほほえましいスナップ、あつとオドロク決定的瞬間など、皆さんご自慢の一枚をドシドシお寄せください。お待ちしております。

また、この新コーナーの名称も同時に募集しています。「シャッターチャンス」、「名カメラマン登場」、「あつ、これだ!」など、遊び心あふれるユニークな名前をつけてください。

写真、コーナー名とも、採用作には図書券をプレゼントします。



応募方法

お気に入りの写真（サービス判。未発表の自作品に限り）と、写真の簡単な説明、住所、氏名、年齢、性別を明記した別紙を添えて郵送してください。ただし、コーナー名のみ応募は、はがきで結構です。

※応募いただいた写真は選考し、採用・不採用にかかわらずお返しします。

3月25日（火）当日消印有効
※写真は随時受け付けています。

応募先

〒017大館市字中城20番地
「広報おおだて新コーナー係」

市長リポート

No. 132



ダムで長木川を活かす

古くから人々や動・植物の憩いの場として、また、農業用水や生活用水の源として親しまれている「ふるさとの川」、長木川。しかし、雪解けの時期には増水による水害を、夏になると渇水を引き起こし、往々にして周囲を悩ませるという姿も持っています。このことから、ずいぶん昔から流量調節の必要性が言われており、昭和初期からは幾度も治水事業が行われてきました。それでもまだ、水害や渇水の被害を回避するにはいたっていません。より効果的な手法としてダム建設の必要性はだいぶ前から認識されていたものの、現在までそれを実現できなかったのは大変残念なことです。

しかし、ここへ来て住宅地の開発が進み、下水道の普及率も高くなってきています。このため、未普及地域をも含めた下水道の安定した供給体制は早期に確保しておかなければなりません。また、農業用水の補完や工業用水の水源確保のためにも水源の安定化は欠かすことのできない問題であり、水道用水への需要は今後ますます増大するであろうと予想されています。

災害抑止と水源確保。観点の異なる二つの大きな問題ですが、これらはダムの建設を軸として、整合性のある形で解決を図ることが出来るものと確信しています。

長木ダム建設事業については、自然界への影響を議論する声があることも承知しています。しかし、土手をコンクリートで固めたりするのは違います。流量の適正化が自然界にプラスに作用することはあっても、悪影響を及ぼすような心配はありません。今後も様々な質問が寄せられることと思いますが、一つひとつにキチンとお答えしていこうと考えています。

小畑 元